

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	(水道)電算委託事業	会計名称	水道特別		担当課	水道課	
		予算科目	1 款 1 項 4 目	事業番号	9909	所属長名	野島康博
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	飴矢百合	
法令根拠等	地方財政法				実施期間	【開始】	令和/平成 18 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 潤いのある水環境づくり					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	水道使用者から水道料金を徴収し、水道事業の健全な管理運営を行うため、電算による事務処理を実施する。						
事業の対象	水道料金等の管理運営のため電算委託 (伊予市) を実施する。			事業の目的	上水道料金計算及び収納処理事務を市の電算システムを有効に活用することで効率的かつ経済的な事務執行を図る。		
事業の内容 (整備内容)	上水道料金及び収納処理事務を市所有電算システムに委託する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	水道料金電算システムを十分に活用し、水道料金の収納処理事務を円滑に実施する。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	3,007	3,035	0	0	0	3,035	委託料	千円	3007	3035	0	3035
財源内訳												
国庫支出金	0	0	0	0	0	0						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	0	0	0	0	0	0						
その他	0	0	0	0	0	0						
一般財源	3,007	3,035	0	0	0	3,035						
職員の人工 (にんく) 数	0.26	0.26				0.26						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	5,082	5,113				5,113						
主な実施主体	直接実施		実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		伊予市長 電算業務支援料 (3,035千円)							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	5年間の合計		
					3,063	3,063	3,063	3,063	3,063	15,315		
成果指標	指標	上水道料金計算及び収納処理事務の電算システム使用に係る代償として一般会計に支払う委託料を記載する。			単位	区分年度	前 年度	1 年度	2 年度	目標 毎 年度		
	指標設定の考え方	市への限定される委託料であるため、成果指標の設定は困難である。			千円	目標	3000	3035	3063	3063		
	指標で表せない効果					実績	3007	3035				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		水道料金電算システムを十分に活用することにより、収納や滞納者に対する情報入力等により、課員の情報の共有化に役立っている。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が	A	事業成果・工夫した点	滞納者に対する情報入力等により、課員の情報の共有化が図れ、窓口や電話の対応が円滑に行われた。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	今後も、水道料金電算システムを十分に活用することにより、情報の共有化を図るとともに事務の効率化に努めたい。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	4							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が			A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 水道料金の調定収納業務に不可欠なものであるため、事業継続と判断する。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	3						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	3							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進につなげることができている。	4							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	所屬長の課題認識	新電算システムの導入後、一定の事務効率が図れるようになった。一方で、今後の維持費が多額になるため、事務の更なる効率化や適性化並びにアウトソーシングについても調査研究する必要がある。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4								
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>		

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断会議	事業の方向性	コメント欄	
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	